

令和6年度協会支援事業助成団体・活動紹介（ボランティア活動支援事業事業）

● 特定非営利活動法人エゾシカネット（札幌市）

事業の実施概要・活動成果

・事業名「子ども食育教室～収穫の秋。小学生を対象に「とれたて新鮮秋野菜」を使った料理教室！」

9月末に「子ども食育教室」を実施しました。

札幌の野菜を利用することで生産者や地元愛が芽生えてくることや、エゾシカ肉を利用し、食材への関心を高めてもらうことを趣旨としました。

丘珠産の日本で初めて栽培に成功した玉ねぎをメインにし、皮のむきかた、切り方やいため方のポイントを習い、実践すると目を丸くして喜んでいました。全員がエゾシカ肉はじめてでしたが野性味の臭みも少なく感じていたようで抵抗感が少ないようでした。

テーブル内での達成感、親子や仲間との連携が強く生まれたようです。



● リーディングシアターすぷりんぐ（札幌市）

事業の実施概要・活動成果

・事業名「演劇活動における社会福祉施設等への慰問」

主に札幌市内の介護施設や子ども達への支援活動、地域コミュニティサロン等での講演活動を行いました。

楽器演奏や皿回しなどの大道芸、観客参加型の落語劇や紙芝居等を通じて観ている方とのコミュニケーションを大切にした舞台づくりをしています。

今年度は子どもデイサービスや子供食堂のイベントなどの子ども達への支援活動の場で公演が多くありました。手話を取り入れた手話歌や挨拶を皆さんと一緒にやりました。

ホームページでは活動報告を続けていて会の活動を広く多くの方々に分かりやすくお知らせしています。



● 一般社団法人清水沢プロジェクト（道央圏・夕張市）

事業の実施概要・活動成果

- ・事業名「清水沢ズリ山整備事業」

私共は「清水沢エコミュージアム構想」という独自の地域計画を基に、炭鉱遺産を活用した地域内外の人々がともに歩むまちづくりに取り組んでいます。

2011年より、炭鉱遺産である清水沢ズリ山の整備事業を自主的に行っています。もともと行政が整備したものではないため、市内外の融資で整備と保全活動を進めています。かつてのゴミ（ズリ）山を、地域の宝の山として守っていく整備かつどうです。

清水沢プロジェクトのメンバーと市役所のみなさんなど市内外の有志16名で、階段の取り替え、防腐剤塗布のほか、いすや看板の補修、草刈り、支障木の伐採などを実施しました。



● つきがた design（道央圏・月形町）

事業の実施概要・活動成果

- ・事業名「町民が交流するラボカフェ」

地域の過疎化が進み、住民が交流する場所や機会が極めて少なくなった月形町で、毎週金曜日に町民が交流できるコミュニティカフェを開催し、住民のコミュニケーションを再建して、地域社会の活気を取り戻します。

特に夏休み期間中の大学生が積極的に交流を図り、月形町社会福祉協議会と連携して町内の高齢者や障がい者にりようしていただき地域福祉について話し合ったり、町内のハンドメイド作家と連携してワークショップを開催するなど、新たな交流が多く生まれました。

そして、多くの来客者からラボカフェの開催期間の延長を依頼され、開催期間を1か月間延長して実施しました。



● 函館観光ボランティア 一會の会（道南圏・函館市）

事業の実施概要・活動成果

- ・事業名「函館観光ボランティア」

令和6年度は、3つの目標を掲げ事業を推進してきました。

①「一會の会」の活動

旧函館区公会堂観光ガイド体験講座などによる「会員募集」を5・7・9月に実施し、5人の新会員の入会がありました。

函館市女性センター主催の市民向け講座の講師として座学と元町散策ガイドを2回実施し33名の参加がありました。

研修のためのガイドブックをこれまで6冊作成し、「ガイドスキルアップ研修」を実施するほか、先輩ガイドとの「同行研修」に力を入れ、積極的な参加者が増えてきました。

②行政との連携

「函館市観光基本計画 2024～2028」の出前講座の実施。前述の女性センターでの口座に市観光課職員が見学参加。

③観光ガイド活動を通しての地域貢献

「親子歴史散歩 五稜郭探検隊（特別史跡 五稜郭後）」を実施し6組の親子が参加。



● 北海道メンタル評議会（道南圏・北斗市）

事業の実施概要・活動成果

- ・事業名「傾聴ボランティア活動」

- (1) お話しダイヤル（電話による傾聴）
- (2) お話しハート（面談による傾聴）
- (3) 高齢者施設（2か所）への傾聴訪問の実施
- (4) 個人宅への傾聴訪問の実施

孤独・孤立感を感じ誰かとつながっていたいという思いや、一人で悩みや不安を抱えている方の心に寄り添いながらお話を聞かせていただくことを心がけ、日々の傾聴活動を行っております。

「聴いてもらえてよかった」「気持ちが軽くなった」「安心した」といったことばを頂き、しっかり話を聴いてもらうことが安心につながり、ご自身で心の整理をつけて前に進むきっかけになっていると感じます。



● 広尾町立豊似小学校読みきかせ本`マボランティア「アトリ」(十勝圏・広尾町)

事業の実施概要・活動成果

- ・事業名「クリスマスイベント「ひろおのサンタさん」の作者を招いて」

朝の時間、各教室にて絵本「ひろおのサンタさん」の読みきかせ。

中休み時間、図書室にて絵本と同じ風船等で飾り付けた中、広尾町キャラクター「サータちゃん」、ツリーくん、トナカイに扮したり赤い帽子をかぶったアトリメンバーが X'mas の曲を演奏、歌い、踊り子ども達を迎える。絵本作家舟木登良男さんのお話し。最後に子ども達へのメッセージを伝える。



子ども達は絵本の内容を楽しみその中に自分たちの馴染みの同じ景色の絵を見つけてまさに自分の事のように感じ地域への愛着を深めたと思います。また、作者の話に耳を傾け伝えたい思いがあればだれもが絵本を作ることができる、そして願い続ければ最初は一人でも協力してくれる人が現れ形になるという可能性をも知りました。

● 草森紳一蔵書プロジェクト (十勝圏・清水町)

事業の実施概要・活動成果

- ・事業名「故草森紳一氏の資料整理・目録作成・蔵書展等開催、会報誌の発行」

1. 草森蔵書約3万2千冊の目録作成は中国語原書を除く和書は終了し、目録データ入力作業を残すのみです。写真資料の目録作成を行っています。

2. 「草森紳一 1/230 蔵書展～絶対の宣伝～」と題し行った蔵書展は、9月に音更町図書館、10月に帯広市図書館で実施し、延べ229人にご来場いただきました。「本の読み方ー写真展 3」と題し行った写真展は、8月に帯広市図書館、9月に清水町図書館、10月に音更町図書館で実施しました。



3. 会報誌は5月末と10月末の2回発行しました。

蔵書展では、「宣伝」「喧伝」をテーマに厳選して展示し、来場者の中には2時間ほど熱心に見ていかれる方もいました。また、写真展では草森著書『本の読み方 墓場の書齋に閉じこもる』に掲載されている草森氏撮影の写真と掲載されなかった写真、生原稿を展示して、草森の世界観を体験していただきました。草森蔵書や資料を通じ、地域住民の文化・芸術に対する新たな出会いの場を提供できたと思います。

● 中標津町郷土館友の会（釧路・根室圏・中標津町）

事業の実施概要・活動成果

- ・事業名「中標津町郷土館緑ヶ丘分館オータムフェスタ」

国の登録有形文化財建物である歴史的建造物の建物や歴史紹介の他、地元ゆかりの作家による木版画、銅版画の企画展示、地域の音楽愛好者による楽器演奏、コーヒーと焼き菓子（北海道中標津農業高等学校製造）の提供、展示資料の農具・馬具の解説などを行いました。



複数のプログラムを用意したことで、国の登録有形文化財である分間の建物内でゆっくり過ごす時間を確保することができました。

これにより、来場者は建物の落ち着いた雰囲気を楽しみ、学芸員が「建物の歴史」、郷土館友の会会員が「展示資料（農具・馬具）」の解説をすることで、文化財保護の機運の醸成を図ることができました。

● 大雪山マルハナバチ市民ネットワーク（道北圏・旭川市）

事業の実施概要・活動成果

- ・事業名「上富良野町日の出公園セイヨウオオマルハナバチ監視活動」

毎年上川総合振興局の協力を得て実施しております本事業は、これまで9月の第一週に実施しておりましたが、しかし近年、町による公園植栽花壇の花弁が夏の高温により当期には終焉してしまう傾向が続いたため一週間前倒しで実施しました。振興局による町への働きかけで地元からの参加もあり、生協に実施できました。



この期の特定外来生物「セイヨウオオマルハナバチ」の女王バチは、来春からの活動に向けた「越冬期」を迎えます。雄蜂との交尾を終えた女王バチは、盛んに「吸蜜」を行い栄養を蓄え、地中に潜り「越冬」します。従いまして今期の防除活動は、春先の越冬女王バチの防除と同様大変効率が良いと考えます。今回の成果は、約6万頭余りの下記の捕獲に匹敵する成果であります。

また、今回初めて「地元参加」があり、防除活動を「市民の活動」として拡げていく意味で大きな成果があったと考えます。

● なんもなんも倶楽部（道北圏・初山別村）

事業の実施概要・活動成果

- ・事業名「地域食堂『なんもなんも食堂』」

七夕、夏祭り、かき氷、新そばによる手打ちそば、クリスマス島のイベントを企画し、コロナ禍以来初めて毎月一回休むことなく、地域食堂を開催することができました。

7年前の開設時と同じ大人200円、小学生以下無料で継続でき、住民の交流の場として喜んでいただきました。

また地元警察署員による、詐欺防止、交通安全の啓発も継続していただき、安全安心な地域づくりにも多少なりとも貢献できたと思っています。親子の集まり場や、防災啓発の場にもなりました。高齢者と自家用車で一緒に来る方が増えたり、仲良しグループで月一回のランチを楽しむ姿も見受けられました。

コロナ禍で離れていたスタッフの復帰、若いスタッフの加入もあり毎月、前月の準備から張り切って活動することができました。



● 外遊びプロジェクト てのひら（オホーツク圏・北見市）

事業の実施概要・活動成果

- ・事業名「こうえんでみんなで遊ぼう」

6月にデイキャンプ、10月に焼きも会、8・11・2月に野付牛公園でみんなで遊ぼう、を実施しました。

デイキャンプでは、ペダルボートに乗ったり、羽釜や飯盒での炊飯、流しそうめん、川遊びを行いました。米とぎや炊飯に「やってみたい！」とワクワクと取り組んだり、川で夢中になって遊ぶ様子がありました。焼きも会では「北見おさんぽ会」と一緒に多世代で交流しながら、焼きもやポップコーンなど、みんなで作り、おいしく楽しい時間を過ごしました。

今年度は、メンバーの子どもを中心に「あそび子ども会議」も開催し、どんな遊びをしたいか、何が必要かなど、子ども達で話し合いを進めて、遊び場づくりへの期待を膨らませていました。

遊びの中でも「これやってみたい！」とアイデアを出し、それを形にしていくことを楽しんでいるように感じました。

これからも、大人も子どもも、主催者も参加者も皆で楽しく過ごせる場を作っていきたいです。

